

英語科研究プロジェクト

中高一貫教育における
LL 学習指導のあり方を探る (3)

(3年計画3年次)

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

谷口 幸夫・加藤 裕司・久保野雅史
鈴木 文子・辻 弘・寺田 恵一
中村 豊

中高一貫教育における LL 学習指導のあり方を探る (3)

(3年計画3年次)

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

谷口 幸夫・加藤 裕司・久保野雅史

鈴木 文子・辻 弘・寺田 恵一

中村 豊

目次 (執筆・編集担当者)

1. はじめに (久保野)
2. 本稿の目的 (久保野)
3. LL 授業担当者一覧 (久保野)
4. 授業実践報告
 4. 1 中学1年生 (久保野)
 4. 2 中学2年生 (鈴木)
 4. 3 中学3年生 (加藤)
 4. 4 高校2年生 (久保野)
5. 1992年度 英語科カリキュラム (谷口)
6. 1992年度 AV 教材配当案 (谷口)
7. AV 教材のデータベース化の試み (久保野)
8. 今後の課題 (久保野)

1. はじめに

1989（平成元）年5月に、新しいLL教室が設置されてから、3年余りが経過した。中学1年生の入門期から中学卒業までの3年間、毎週1時間LL授業を受けた学年が、今年の3月に中学校を卒業した。生徒がひとまわりしたところで、予定通りに本研究も一端終了することとする。

都立高校では全校にLL教室が設置されようとしている。高価な機器が、ある場合には他の施設を犠牲にしてまで導入されようとしている。そうまでして出来たLL教室がホコリをかぶったままであってはならない。小泉（1992）は、次のように言っている。

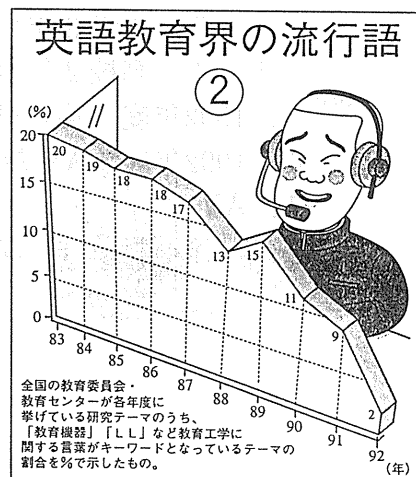
LL復活？

L.L. (language laboratory) は設置してあってもほとんど使っていない学校が多い。ところが最近、平成6年度からの高校の新しい科目のうち特に「オーラル・コミュニケーションB (=OC.B) について、「LLを活用すればよいのでは」という考え方があるということを目にする。たしかに、「聞くこと」を活動の中心にしたOC.Bである。LLに生徒を入れてテープを回せば簡単にできそうだし、という発想は安易ではあるが、必ずしも間違っていない。せっかく高額の投資をして設置した機器であるから、オーラル・コミュニケーションの導入をきっかけにして使われるようになってくれれば言うことはないのである。

資料1によると、LLは英語教育の時流から外れているようである。その結果、LL教育に関する最新の実践データが、以前よりも入手しにくくなっている。本研究は、そういった数少ない貴重な資料の一つである。これからLLに取り組む方々の、お役に立てることを願っている。

（資料1）『現代英語教育』1992年12月号

先月に引き続き、全国の教育委員会・教育センターの研究テーマを検討してみた。今回は、「教育機器」と「LL」である。グラフでお分かりのように、これらのテーマは長期低落傾向にある。LLがかなり普及したこと、また先月は伝えたように、現在の学校英語教育では、コミュニケーションとティーム・ティーチングが流行であることなどが、こうした結果を生んだのではないかと思われる。しかし、今後、これら教育機器関係のテーマが消えてしまうと到底思えない、むしろその逆であろう。情報化時代の進展に伴い、教育機器に対する教育界の関心はますます高まりつつある。また、LLの後はCAIとAV機器だとばかり、「業者」が虎視眈眈と狙っているのだから。（魚）



2. 本稿の目的

本稿では、3年間の研究の総括を行う。研究開始当初に計画していたことは次の3点である。

- (1) LL 教室活用のための創意と工夫
- (2) LL を組み込んだ6ヶ年のカリキュラム再編成
- (3) 適切な LL 教材の学年配当

結論から言えば、(1)~(3)のどれもが、未完成の段階にあると言わざるを得ない。残された問題とこれからの展望は、§ 8 で詳しく述べる。

従って、本稿でのまとめは、以下の4点に限られたものとなる。

- (1) 1992年度における中学1年から高校2年までの授業実践、創意と工夫。(高校1年生は非常勤講師が担当のため除く) — § 4
- (2) 1992年度 英語科カリキュラム — § 5
- (3) 1992年度 AV 教材配当案 — § 6
- (4) AV 教材のデータベース作成の途中経過 — § 7

3. LL 授業担当者一覧

1991年度の LL 授業担当者は、次の通りである。各学年とも週に1時間、通年で行った。

学年	担当者	(単位数)	
中学1年	久保野	(1/4)	
中学2年	鈴木	(1/5)	※ LL 教室・準備室担当：加藤
中学3年	加藤	(1/5)	
高校1年	尾崎	(1/4)	
高校2年	久保野	(1/5)	

上記の他、高校3年の英語ⅡC (1単位/3単位中：担当者 加藤) の中でも、大学入試ヒアリング問題等の演習のために、時々 LL 教室を使用することがあった。

(参考) 1992年度の LL 授業担当者一覧

中学1年 加藤

中学2年 久保野

中学3年 尾崎

高校1年 加藤 (英文法と隔週で実施)

高校2年 加藤 (9月まで、10月からは英作文)

4. 授業実践報告

4. 1 中学1年生(45期生)

本校のLLシステム(AKAI)では、Visual面が重視され、となりあった生徒2名のブースごとに1台のテレビモニターが埋めこまれている。現実には、生徒各自が自分専用のモニターを持っているのほとんど変わらない。授業で送り出すソースは、純粋な音声教材と、映像を伴った教材とが、ほぼ同じ位の割合で用いられている。

4. 1. 1 授業の構成

● 昨年の中学1年生(担当者 谷口)と大体同じ構成である。

● 中学1年生に、一定時間以上同じ作業を続けさせるには無理がある。そのために、1時間の授業は次の5つのパートに分けられている。どのパートも10分を超えることはない。

(1) Greetings~Warm-up

— 英語で話しかけられること、身近な話を聞くことに慣れさせる活動

(2) Rhythm Training (Visual)

— 英語の発音(特にリズム、ストレス)に慣れさせる活動

(3) Pronunciation Drills (Audio)

— 基本的な音素と聞き分ける力、発音できる力を養成する活動
(アナライザーを用いた音素の識別テスト)

(4) Dictation (Visual)

— ビデオを見て、スクリプトを完成させる活動

(5) Listening (Audio)

— 概要・要点を聞きとり(人に伝える)活動

(5)' Visualized Textbook (Visual)

— 教科書の本文の内容を提示する活動

(5)'は2-3時間に1回の割合で行う。その時以外は、(5)を行う。

4. 1. 2 授業の進め方

前述の授業の流れに沿って、使用教材、各パートの内容を詳しく述べる。

(1) Greetings~Warm-up

①授業開始時の指示(起立・礼・着席等)、②出欠・忘れ物チェック、③導入のための雑談等をすべて英語で行う。宿題・提出物や、次の授業に持って来る教材の提示等も同様である。大切な情報が聞きとれない時には、必ず英語で聞きかえして確認する習慣をつけさせる。

① 起立・着席等

Take your seat. Stop walking around.

Stand up. Attention! Stand straight. Shoulders back.

② 出欠・忘れ物チェック

Is everybody here? Who is absent?

Why are you late? What time is it? Didn't you hear the chime?

Where were you? What were you doing there?

Does everybody have a textbook? Raise your hand if you don't.

Who doesn't have a cassette tape today?

Who has a cassette tape in the locker? Go get it!

You have to come back within 30 seconds.

③ 導入のための雑談

Field Day, School Festival, student teachers, term examinations, long vacations 等の学校行事を中心に。詳しくは、久保野（1991）参照。

(2) Rhythm Training

ビデオ『F.I.A. Rhythm Training（くちぐせ発音特訓ビデオ）1～6』（地球人村）を使用。

（資料2）2～3分間流し、ビートにあわせて発声練習を行う。

全6巻（各10分）のうち4本は、一部分しか使わなかった。使用した部分を以下に示す。

Tape 1 Sports, baseball, foods, kitchen, Start the car（対義語：動詞）

—身近なカタカナ語から

Tape 2 The Alphabet, words ending in “ing/ er” and with “l t” sound, spelling,（対義語：形容詞）

Tape 3（部分） Black or white（対義語：形容詞）

Tape 4（部分） Dress

Tape 5（部分） 対義語：形容詞／動詞

Tape 6（部分） Ride a horse（動詞を中心とした表現）

画面にはイラストの他に実写も数多く登場する。単語の意味に関連した効果音が入っているのも面白い。特筆すべきことは、タイミングのとりやすさである。どこで声を出したら良いかがほとんど意識しなくとも自然にわかるように出来ている。何となくリピートしているだけで、自然な英語のリズムで発音できるようになっている。ここが他の多くのビデオ単語集よりも決定的に優れている所である。

英語 しゃべりたい!!

ENGLISH
2400hr
TRAINING

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

発想の中に 成功あり

想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう



反射神経に
たまたまぞめ!!

想像力と反射神経の関係を説明するイラスト。想像力と反射神経の関係を説明するイラスト。

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

英語のリスニング ポイント

英語のリスニングのポイント

英語のリスニングのポイント

英語のリスニングのポイント

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

1000番組 1000hr
想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

想像力を鍛えよう

英語のリスニングのポイント

英語のリスニングのポイント

英語のリスニングのポイント

EXERCISE your English!
workout for your MOUTH
fun for teaching all ages and
warning up your class.

Since 1971

FOA has been extended to include rhythmic exercises for students in 1971
high school students, improving their standard levels with specially
designed audio and video tapes.

MOUTHERCISE!?

非ぼろしの英語サウンド

RとLの発音

徹底指導 徹底練習

発音指導 徹底練習

徹底指導 徹底練習

英語のリスニング

徹底指導 徹底練習

徹底指導 徹底練習

徹底指導 徹底練習

(「年、車」)

LESSON

12

●学習内容●

「ear/year,cars/cards,garage,fly/fry,play/pray」

1 ear [iə]r



2 year [jiə]r



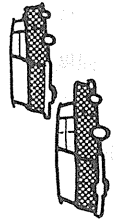
1. car [kɑ:]r (名) 車

●Choose ear or year

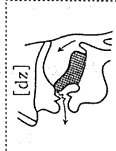
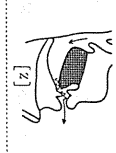
解答欄	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
欄										

正答数 [/10]

3 cars [kɑ:]r (名) 車の複数



4 cards [kɑ:rdz] (名) カードの複数



3. cars [kɑ:]r (名) 車の複数

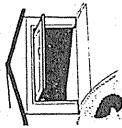
●Choose cars or cards

解答欄	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
欄										

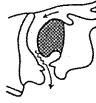
正答数 [/10]

「ear/year,cars/cards,garage,fly/fry,play/pray」

5 garage [gɑ:rdʒ] (名) 車庫

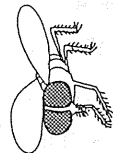


[s]

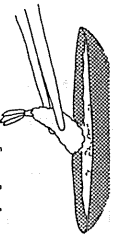


5. garage [gɑ:rdʒ] (名) 車庫

6 fly [flai] (名) ハエ



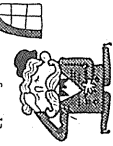
7 fry [frai] (名) フライ



8 play [plei] (動) 遊ぶ



9 pray [prei] (動) 祈る



6. fly [flai] (名) ハエ

8. play [plei] (動) 遊ぶ

●Choose [i] or [r]

解答欄	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
欄										

正答数 [/10]

(3) Pronunciation Drills

島岡丘『LL教本・英語発音ベーシックコース』（大修館）を教材として使用。各レッスンには、2-4組の音素の対比練習が用意されている。各組に、10問の音素の聞き分けテストがついている。回答はすべて、各ブース備え付けのアナライザーを使って行う。これはコンピュータ（NEC PC-98）と連動しているため、瞬時の採点、データ分析（SP表等）、データの保存・集計が簡単に行える。期末成績に算入する際の手間が大幅に軽減できる。

分析結果を見ると、ほとんど全てのテストで10問のうち前半と比べて、後半の数問の正答率が上昇していることがわかる。繰り返し聞くことによって、音素を識別するための弁別性 (distinctive feature) が徐々につかめてくるようである。

アナライザーを用いる際に気をつけておかなければならないことがある。Lesson 12（資料3）には① ear/ year, ② cars/ cards, ③ fly/ fry 等の3種類の音素の識別テストが入っている。アナライザーによる採点等は、①, ②, ③のそれぞれが終わった時点で別々に行わなければならない。①-③を一度に採点することも可能ではある。それではただの自動採点装置として使っているに過ぎない。異なった内容のテストの結果を分析しても意味のあるデータは得られないからである。

テストは原則として1時間に1回（10問）しか行っていない。理由は、上記のデータ分析上の問題と、所要時間の問題である。発音や聞き分けのコツを説明しながら練習し、個別練習の時間を与えると、10問のテストで丁度良い。

(4) Dictation — 「ビデオ・スキット」の台本完成

NHKラジオスキット『基礎英語』のビデオを用いる。（月刊・30分、2,900円、研究社出版）1週間分（月曜から木曜）のダイアログが1本のビデオスキットにまとめられていて、前の週の復習を授業で行うのに適している。

各週のビデオの構成は次の通りである。

A 毎日の目標文 (key sentence) — 4日分 B. スキット C. 表現のまとめ

Cの部分は使わない。Bの台本完成が終わった所で再びAにもどり、目標文の口頭練習をする。1回目（スキットの前）にAを見せる時には、意味の把握だけにとどめておく。

「ビデオ・スキットの台本を完成させよう！」という活動の手順を次に示す。

- ① ビデオ・スキット（2分程度）を流す。生徒は各自のブースでカセットに録音する。
- ② ラジオのテキストをプリントして配布する
- ③ ビデオ・スキットの台本を完成させる。ラジオのテキストと、ビデオの間には、必ず何ヶ所かの違いがある。各自がテープを巻きもどして自分のペースで聞きなおしていく。違っている箇所は、プリントを訂正する形で書きこんでいく。（対話の役割ごとに分けて、2人1組で作業させることも可能である）
- ④ プリントをとりの生徒と交換し採点する。解答は教師が口頭で与える。

この場合も指示は原則として英語で与える。

Are you ready for recording? Rewind your cassettes, and listen again. 等

(5) Listening

熊井信弘, M.Rost 著 *First Steps in Listening* (Lingual Hosue) を使用。

現在 教室で行われているリスニング指導について、根岸 (1992) の意見を紹介する。

こうした指導は、一般にテキストとその付属のテープを用いて行われ、授業では教師がテープを流し、生徒が質問 (問題) に答えるとなっているようである。しかし、この「指導法」は、生徒の理解をチェックするだけの単なる「テスト」に過ぎないのではないか。たまたま聞き取れた生徒はいいが、聞き取れなかった生徒は永遠に聞き取れないままである。(下線は引用書による)

上で指摘されたような、「リスニング・テスト集」が数多く出まわる中で、*First Steps* は良質な「リスニング教材」として評価されている。入門期の生徒が、徐々にリスニングの方略 (tactics) を身につけていけるように、易から難へ、無理なく構成されている。

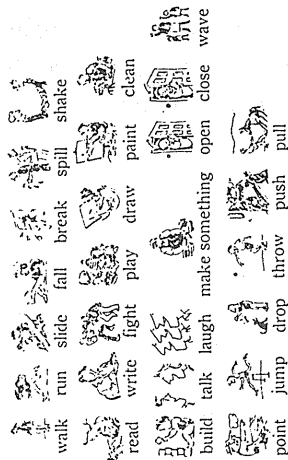
編集目的は、次のように書かれている。

FIRST STEPS IN LISTENING is designed to help beginning learners of English develop basic listening skills. *FIRST STEPS* follows an introductory structural outline of grammar points. The speakers on the *FIRST STEPS IN LISTENING cassettes* use these grammar points in simple, natural-sounding conversations and monologues. By using *FIRST STEPS IN LISTENING* regularly, students learn to recognize the basic grammar patterns in everyday conversational contexts.

かなり長くなるが、一単元全体を引用する。教室での使い方の指示とテープスクリプトは、*Teacher's Manual* に詳しく出ている。(資料4)

PREVIEW

Action Words

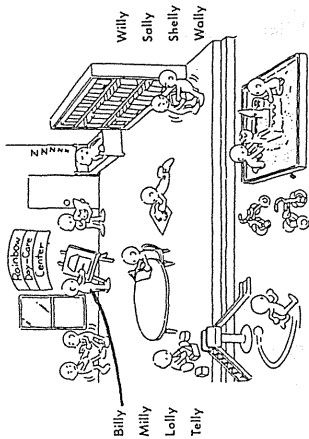


UNIT
7

Activities

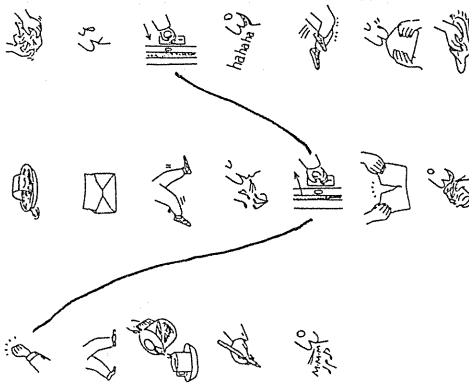
TASKS

A. Listen. Draw an arrow (→) from each name to the picture.

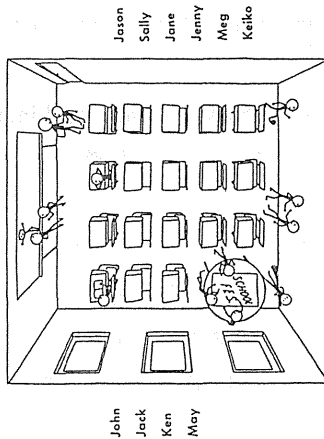


STARTERS

Listen. Connect the actions.



B. Listen. Draw an arrow (→) from each name to the picture.



Connected sounds

1. (is he) home?
2. Is she here today?
3. Does he like you?
4. Does she understand?
5. How are you doing?
6. How is the weather?
7. What did he say?
8. What did she buy?

HEARING TACTICS

Listen.
Circle the connected sounds.

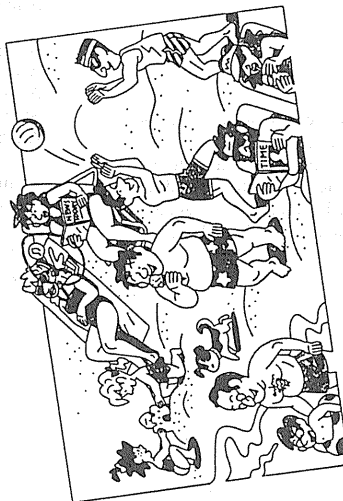
LISTEN & INTERACT

A

Step 1:
Listen.
Look at the picture.

Step 2:
There are five differences between Picture A and Picture B.
Ask your partner some questions and find the differences.

For example:
In my picture, a woman is reading a magazine.
How about in your picture?



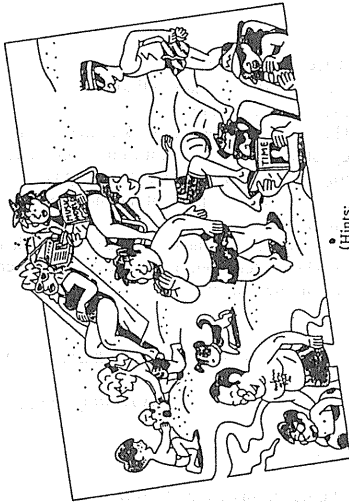
(Hints:
boys or girls?
listening to a radio?
reading a book?
eating something?
playing baseball?)

B

Step 1:
Listen.
Look at the picture.

Step 2:
There are five differences between Picture A and Picture B.
Ask your partner some questions and find the differences.

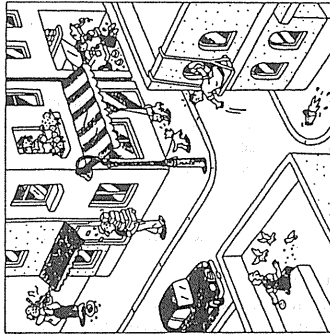
For example:
In my picture, a woman is reading a magazine.
How about in your picture?



(Hints:
boys or girls?
listening to a radio?
reading a book?
eating something?
playing baseball?)

FOLLOW UP
Can you remember?

Look at the picture for 30 seconds only. Then close the book.
Write down the actions. How many can you remember?



UNIT SEVEN

contents: actions

Introduction

The teacher or students can pantomime some actions (such as, pouring a cup of coffee, tying a tie, putting in contact lenses); others guess the actions, using present progressive: *You are --ing...*

Preview

Listen to the tape and point to each action.

Starters

Listen and connect the actions, as in the first example given. Although some English phrases are used in each item, it is not essential for the students to understand the language in order to complete this exercise.

1. knock, open, close
2. walk, run, fall
3. pour, spill, wipe
4. write, tear, crumple
5. hum, whistle, laugh

Tasks A & B

In these tasks the students listen and draw an arrow from each name to a figure in the picture. Students should not worry about catching all of the descriptions, just the main verbs (actions).

To check this exercise, you can ask individual students about each child (in Task A) or each student (in Task B):

Teacher: What is _____ doing?

Student 1: She's _____ -ing...

Alternatively, you can ask questions to identify each person:

Teacher: Who is drawing a picture on the blackboard?

Student 1: _____ is.

Hearing Tactics

The purpose of this exercise is to show, as in the previous **Hearing Tactics** exercise, how words are connected in speech. In this exercise, the students are to circle which words are pronounced as "connected" (assimilated). As usual, words with weak stress tend to be less clear.

Listen and Interact

In this activity the students are to find differences between the A and B pictures.

Step 1: The students listen and look at the picture.

In this step, students should point to the picture as the narrator describes the picture. This step is necessary to introduce the parts of the pictures where there are differences.

Step 2: The students find the differences of details in the picture. The students will need to ask each other about details in their picture.

Example:

A: In my picture, a woman is reading News Today magazine.

B: Oh, in my picture, a woman is reading Music World magazine.

A: OK. That's one difference.

Students should simply circle the differences on the page, not try to write out the differences.

If students have trouble, remind them to use hints written under the picture.

To check this activity, ask the students as a group to identify the differences.

Encourage them to be explicit at this point.

Example:

In Picture A, the woman is listening to a Walkman tape player. In Picture B, the woman is listening to a radio.

Follow Up

This Follow Up exercise is a memory game. Tell the students to look at the picture. After a short while (30 seconds or so), tell everyone to close their books. Give instructions like this: *On a sheet of paper try to write in English all of the actions you saw. Use sentences like this: A man is _____ ing...*

Answers:

A man is playing a violin.

A man is carrying some boxes.

A man is feeding some birds.

A woman is watering some flowers.

A woman is fixing a car.

Two dogs are fighting.

A man is cleaning a window.

To make this activity much easier, you can read the "answer sentences" while the students look at the picture. Then, when the students close their books, they will have both an "aural memory" and a "visual memory" of the picture.

TAPESCRIPT

UNIT SEVEN

PREVIEW (page 29)

Action Words

walk	run	slide
fall	break	spill
shake		
read	write	fight
play	draw	paint
clean	build	talk
laugh	make something	
open	close	wave
point	jump	drop
throw	push	pull

STARTERS (page 29)

Listen. Connect the actions.

1. knocking, "yes?", door open, "hi, come in," door closing
2. walking, "hurry," running, falling, "ow, my leg"
3. pouring liquid, spilled (cup tipped over), "oh, no, spilled it," wiping table with cloth
4. writing, "ah, another mistake," tearing, crumpling
5. humming, whistling, "Be quiet, I'm studying," laughing

TASK A. (page 30)

Listen. Draw an arrow from each name to the picture.

- Billy is painting... next to the window...he's painting a house...
- Milly is reading... next to the door...she's reading a story about cats...
- Lolly is playing a game...next to the table...it's a game with shapes...
- Telly is sleeping... he's very tired today, I guess.
- Willy and Sally are fighting... next to the shelf... they both want the same book...
- Shelly and Wally are making a sand castle, outside in the sand box...

TASK B. (page 30)

Listen. Draw an arrow from each name to the picture.

These students are doing different things. John is sitting at his desk...He's studying...or reading a book...Nothing bothers John.

Jack and Ken are in the front of the room. They're drawing pictures on the blackboard. What are they drawing? It looks like a person...

Near the blackboard, that's May...What? She's sleeping! Shh...don't wake her up.

And at the back of the classroom, that's Jason...he's playing with a ball...Is that Jason? Yes...it is...

Next to Jason, who's that? There are two students talking...Sally and Jane...

And then there are some students working at the big table. They're making a poster. That's Jenny and Meg and Keiko.

HEARING TACTICS (page 31)

Listen. Circle the connected sounds.

(This section is repeated on the tape.)

1. *Is he* home? 5. *How are you* doing?
2. *Is she* here today? 6. *How is the* weather?
3. *Does he* like you? 7. *What did he* say?
4. *Does she* understand? 8. *What did she* buy?

LISTEN & INTERACT (pages 31 & 32)

Step 1: Listen. Look at the picture.

Here are some people at the beach...It's a very hot day and the beach is very crowded.

On the left two children are making a sand castle...That looks like fun.

At the top of the picture, a young woman is sitting, and reading a magazine. What is she reading? Next to her, a woman is lying on the beach. She's listening to some music. In the middle of the picture there's a man. He's eating something...He's hungry. I guess.

On the right, there are two boys playing a game with a ball...That looks like fun too...

Step 2: There are five differences between Picture A and Picture B. Ask your partner some questions and find the differences.

(5) Visualized Textbook

New Horizon English Course 1 のレーザーディスク（東京書籍）を使用。

教科書を学習する直前に、その課の LD を予習のために見せた。Non-verbal な情報を与えることによって、本文の導入に先立ってスキーマを作らせておくことも目的としたので、解説や練習は、一切行わなかった。

4. 2 中学 2 年生（44 期生）

英語の授業が週 4 時間、内 1 時間はティームティーチング、2 時間は教科書中心の授業に当て、残りの 1 時間で LL の授業ということなので 3 種類を要領よく関連づけて授業を進めるよう心がけた。

4. 2. 1 使用教材と授業構成

使用教材

(1) 年間通して主として使う LL 教本（各自生徒にもたせた。）

FRESH LL ENGLISH COURSE LL 教本 大修館

FRESH LL ENGLISH COURSE LD（レーザーディスク）

SENIOR LL ENGLISH COURSE 大修館

(2) LL 以外の授業と関連した VIDEO 教材の提示

NEW HORIZON 2 年 教科書準拠 LD（レーザーディスク）

FOLLOW ME コースブック BBC 製作

SHERLOCK HOLMES 映画 BBC 製作

APPLE YARD COLLEGE (HANGING ROCK) オーストラリア映画

(3) English for fun として内容を楽しめる VIDEO 教材

WANDER DAYS（素晴らしき日々） テレビドラマ アメリカ TV 製作

GUIDE TO GREAT BRITAIN BBC 製作

授業構成

上記の(1)を柱として授業を下記の 2 つの部分で構成した。

(1) LL 英語教材

(2)あるいは(3) LL 以外の授業に関連する教材

English for fun にふさわしい教材

2 つの部分のどちらを先にするかは固定されたものでなく臨機応変にした。

例えば FRESH LL の内容を録音している間に教科書付随の VIDEO を見せることでレッスンの復習をさせたりし、限られた時間を有効的に使うようにした。

4. 2. 2 授業展開

上述の教材を使用した授業展開を以下具体的に述べる。

(1) 年間通して主として使う LL 教本（各自生徒に持たせた。）

① FRESH LL ENGLISH COURSE（資料 5）LL 教本 大修館

FRESH LL は音声面重視の典型的な LL 英語教材である。そこで音声ドリルを中心に、聴解力とそれに伴う発話力を伸ばすようなことを目標にした。

テキストは 4 課ずつ 6 ユニットは分かれ、各ユニットの終わりに GENERAL REVIEW がある。その他 DRAMA も 4 課に分けて収録されている。基本的には順序通りに行ったが、LL 以外の授業との関連を常に意識して進めたので後半のユニットを先に行うこともあった。各課では理解度チェックをアナライザーで分析できるので、評価に大いに役だった。DRAMA の THE KING'S MAGIC SUIT はだれでも知っている話なので内容理解というより表現に注目させ対話練習をさせた。

② FRESH LL ENGLISH COURSE LD（レーザーディスク）

LD といっても動きのない絵を連続で示してそれに合わせた対話やナレーションがながれていくといった単純なものであった。しかしその単純さが受けて 1 課が 1 - 2 分の短さだが、生徒は非常に興味を持って見ていた。

③ SENIOR LL ENGLISH COURSE（資料 6）大修館

SENIOR LL は FRESH LL の一段階程度をあげたもので語彙、文法項目とも難しいが生徒に関心のある話題をとりあげ概要をとらえさせることを主眼にした。2 学期までに FRESH LL をほぼ終わらせ 3 学期に行った。新年の抱負やバレンタインに関する話題などをとりあげ学習している時期にふさわしい教材の提示は効果的であった。

(2) LL 以外の授業と関連した VIDEO 教材の提示

① NEW HORIZON 2 年 教科書準拠 LD（レーザーディスク）

教科書に出ている人物が実際に画面に現れて話をするので親近感をいただき、教科書に戻った時もただ文字を読むという事ではなく、具体的なイメージをもって読むことができる。LD は新しい課にはいる前に見せれば、生徒も本文を読む時に抵抗なく読める。また逆に課が終わってから見れば内容理解の確認もでき教材を復習として扱える。

LESSON 15. What Do You Want to Be?

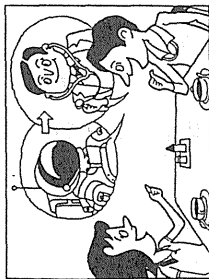
15-4 Review [15-3]の正答を含む文です。聞いて空所を埋め、次に、あとについて書いてください。

1. When he was a _____ boy, Fred wanted to be an _____.
2. Fred _____ to be a doctor _____ he can.
3. Mariko has _____ wanted to be a _____.
4. _____ of Mariko's _____ are teachers.
5. Mariko is _____ her parents.

15-1 Basic Dialogues あとについて書いてください。

1. A: What do you want to be?
B: I want to be a doctor, if I can.
2. A: It's time to go to the disco.
B: OK. Let's go.

15-2 Conversation 絵を見ながら、対話をよく聞きなさい。



良医のあと、2人の話は続きます。小さいときどんな夢を持っていたのでしょうか？そして今は？

Words and Phrases

あとについて書いてください。
astronaut
proud
it's time to go



15-3 Aural Check

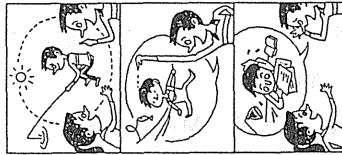
対話の内容について質問します。聞いてA、B 2つの答えが聞こえてきます。正しい答えの記号をOで囲みなさい。

1	A	B
2	A	B
3	A	B
4	A	B
5	A	B

15-5 Communication Drills 聞こえてくる指示に従って練習しなさい。

1. boy / an astronaut
O When I was a little boy, I wanted to be an astronaut.
1) girl / a singer 3) girl / a stewardess
2) boy / a pro baseball player
2. an astronaut / boy
O I've wanted to be an astronaut since I was a little boy.
1) a singer / girl 3) a stewardess / girl
2) a pro baseball player / boy
3. I / a doctor
O My parents want me to be a doctor.
1) Helen / a teacher 3) Bill / a farmer
2) Bob / a computer engineer

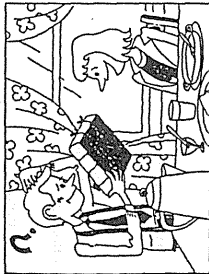
15-6 Dialogue Practice 聞こえてくる指示に従って、対話の練習をしなさい。



- A: What are you going to do next Sunday?
B:
A: Is it your new hobby?
B: No.
A: Remember, our final exams are coming soon.
B:

10 Valentine Heart (I)

10-1 Dialogue ほととぎすの音に似た3つの点に注目して聞きなさい。



Listening Points

1. What name is on the package?
2. Why does the husband hesitate to leave for work?
3. Who has sent the package?

Henry and his wife are having breakfast.

Henry: Here's another pollution joke*, honey.

Reading from the newspaper.

H: "A woman fainted at the height* of the rush hour traffic in New York. A doctor who rushed to her side begged passers-by to crowd around her so she wouldn't get air."

Solly: [Scoffing*] Those pollution jokes remind me of those sick* jokes that used to be the fad*.

H: [Rising] Well, I've got to be going*. I'll see you later.

The door chimes sound.

S: Who could that be? Could you go, Henry? I'm not presentable*.

H: Sure.

He goes to the door, returns with a package.

H: It's for you. A special delivery package.

pollution joke 「公害に因する冗談」
height 「まっ腹中」, in the height of summer 「夏のまっ盛り」,
so she wouldn't ~ 「彼女が～しないように」,
scoff 「身ごけり笑う」,
sick 「不健康な」,
fad 「服装、行動、音楽使いなどの」一時的流行、

I've got to be going. 「行かなくてはならない」, be going の形で言う方がなだ go と言うより普通、

よその家などへ行っていて、「帰らなくてはならない」と言うときにも使える。

Who could that be? 「一体だれかしら?」, Who is that? より不審な感じがこめられている。
Could you go? 「出てくださる?」, Can you go? より丁寧な表現、丁寧な感じをあらわすためによく動物園の退去形が使われる。

I'm not presentable. 「私は今出られない」。

S: Oh? Who is it from?*

H: There's no return address*. And it's in your maiden name*.

He hands it to her.

S: I wonder who could have sent it*.

She casually puts it aside and stands as if to see her husband off.

H: Aren't you going to open it?*

S: I'll open it after I see you off.

H: Why don't you open it now?*

S: You're leaving now, aren't you? I want to walk* you to the door.

H: I still have a few minutes. Go ahead and* open it.

S: Sure, if it won't make you late. I thought you were in a big hurry.

She slowly unwraps the package, carefully folding the wrapping paper before opening the box.

H: Hurry up! I don't have all day.

S: [Removing the lid] Oh, how nice!

H: What is it?*

S: A valentine heart: Hmmm. Chocolates!

H: Who are they from?*

S: There doesn't seem to be a name.

Who is it from? この who は文法的には whom とすべきであるが、英語の会話では whom はまず使わない。

return address 文字どおりに「返信用のあて名」ということで、「送出人の住所氏名」のこと。
maiden name 「結婚前の名前」
who could have sent it could には Who could that be? の場合のような特別な用法があるので、過去のことを表現するには could の次に受了形を使う。cf. We shouldn't have eaten it. (それは食べべきではなかったんだ)

walk 「歩いて行くと」, ここでは「送る」の意。
go ahead and ~ この go ahead には「前へ進む」という意味はなく、ただ相手を促すときに使う。
valentine heart 「バレンタインの心」ということだが、ここでは「バレンタインのハートの形をしたお菓子の箱」の意。

10-2 Comprehension Check

10-1で聞いた内容について質問します。正しいA、B2つの答を○で囲んでください。正しい答の番号も○で囲みなさい。

1	A	B
2	A	B
3	A	B
4	A	B
5	A	B
6	A	B

UNIT 28

I enjoy it

VOCABULARY

PHRASES

- to be good at
- bad/badly
- book
- bookcase
- to enjoy/enjoyed
- golf
- to make (a bookcase)

- omelette
- to play/played (against)
- to play tennis
- to swim (swimming)
- to win
- worse

CONVERSATION I ENJOY READING BOOKS

Brian: Hello, Francis. What are you doing?
Francis: I'm making a bookcase. I like books. I like buying books and I enjoy reading them. But I don't want to buy a bookcase.
Brian: Why not?
Francis: Bookcases are expensive, and I enjoy making things. So, I'm making a bookcase.
Brian: Well, I'm playing tennis this afternoon. Would you like to play?
Francis: No, thanks. Not this afternoon. It's too cold. And I'm busy.



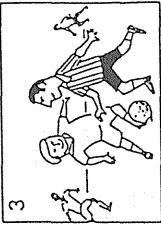
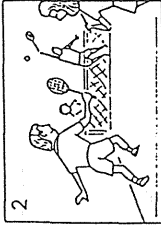
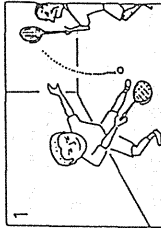
LIKE/ENJOY

I like tennis.
 I enjoy playing tennis.
 I enjoy watching tennis.
 I enjoy making things.

I like football.
 I enjoy tennis.

BUT I like watch + INC
 enjoy drive

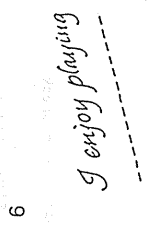
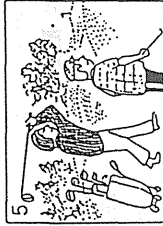
I like watching football.
 I enjoy driving.



I enjoy playing squash

tennis

and football,



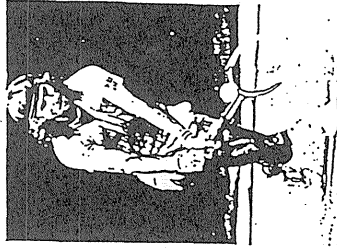
I enjoy swimming

and I enjoy playing golf.

I enjoy playing

CONVERSATION WHO'S WINNING?

Beryl: Who's winning? Brian or Peter?
Anne: Brian's winning. He usually wins. He's good at tennis. Peter isn't.
Beryl: Where's Francis?
Anne: He's at home. He doesn't like playing tennis.
Beryl: He enjoys watching tennis. He often comes here and watches.
Anne: And sometimes he plays too. He played against Brian last week.



WELL/GOOD AT/BETTER

A Brian plays well.
 B Yes. He played well yesterday.
 Peter isn't good at tennis.
 Brian played better than Peter.

② FOLLOW ME (資料7) コースブック BBC 製作

文法項目を軸としてスキットを展開し、1-60巻にはそれらの文法項目がスパイラルの形で提示してある。その点で教科書と併行させながら文法項目を学習させることができた。スキットでは繰り返し基本的な文が発話されるのでスキット終わりまでに、文がある程度生徒に定着していた。ただスキットの登場人物が大げさな表現をすることで登場人物の身ぶりばかりに気をとられてしまうこともあった。スキット以外にもイギリスの社会習慣や風物誌的な場面をナレーションを入れて5分ほど紹介しているパートがあるので、異文化紹介に役だった。

③ SHERLOCK HOLMES 映画 BBC 製作

夏休みに SHERLOCK HOLMES の retold したものを reading の課題として与えている。その読み物の1つに「バスコム溪谷」があった。夏休み期間中に放映されたものを録画し2学期当初に授業で見せた。自主的に読んだ作品なので生徒自身の理解度はどの程度であったか映画を見る事で自己評価する事もできた。

④ APPLE YARD COLLEGE (HANGING ROCK) オーストラリア映画

ティームティーチングの授業との関連でこの教材を提示した。オーストラリア人 (Mr.Petersen) の AET とのティームティーチングで扱った題材の1つに HANGING ROCK というストーリーがあり、これは APPLE YARD COLLEGE の映画を基にしてつくられた教材である。授業で学習したことが映画の形で鑑賞できたので生徒に大きなインパクトを与えたようだ。

APPLE YARD COLLEGE という原題のオーストラリア映画である。内容は寄宿生活をしている女高生が遠足先の山で遭難する話で実話に基づいている映画の全体の長さは2.5時間位画であるが、授業時間の半分を映画に当てたので5回にわたって見ることになった。登場人物がほとんど女子学生ということもあり、生徒は続きをみるのを楽しみにしていた。

(3) English for fun として内容を楽しめる VIDEO 教材

物語を VIDEO で見て内容理解度チェックの練習問題やるというのも語学の学習の一環としてよいかもしれないが、細かいところにとらわれずに楽しみながら内容を把握していくことも重要である。見終わったら必ず練習問題が待っているというのは、生徒の気持ちにも負担をかける。授業の一部では必ず何らかの練習を行っているのでリラックスしながら学習できるという意味でも是非このような機会を与えるべきであろう。

① WANDER DAYS (素晴らしき日々) テレビドラマ アメリカTV製作

衛星放送で放映されたドラマを録画し自主教材とした。主人公はアメリカの中学2年生の男子。小柄な体格だが人一倍正義感が強く行動的な少年である。生徒は同世代のアメリカの少年の日

常あるいは学校の生活に興味をしめした。字幕はなく原語で聴かなければならなかったが、ストーリーの展開のおもしろさにひかれ集中して見ていた。発話そのものはいわゆる *natural speed* だがタイミングよく間がとられていて生徒もその間である程度の表現を聞き取っていた。画面からだけでは理解しがたい部分、例えば「教師が少年に論じた内容はどんなことか」などの質問にもおおくの生徒が答えることができていた。英文で聞くだけでは理解しにくいことも、背景の助けで内容把握をより速くまたある種の達成感をも味わっているようだ。

② GUIDE TO GREAT BRITAIN BBC 製作

英国人の女性が米国人の男性にイギリスを案内するという設定になっており、2人の対話が物を尋ねる、注文、交渉など機能別に展開されていく。重要なダイアログでは、一時ポーズや繰り返しがあリ表現の定着をねらっている。スクリプトがあるので重要な会話の部分を印刷して与えた。

4. 2. 3 評価

主に FRESH LL ENGLISH COURSE と SENIOR ENGLISH COURSE の LL 教本で学習したことを、ユニット毎に GENERAL REVIEW の形でアナライザーを使い分析し評価した。

4. 2. 2 の(2)はLL以外の授業で評価を行ったので生徒の理解状況を把握するうえでの参考とした。また(3)は上述したように楽しんで学習するという視点から評価の対象から外した。

4. 3 中学3年生(43期生)

筆者は、中学3年・高校3年の授業を担当した。高校3年の授業は英語ⅡCでLLの授業はほとんど行わなかったため、中学3年のLL授業の内容についての報告になる。

中学3年生の授業のうち、2時間を教科書、1時間間をAETとのチーム・ティーチング、残りの1時間をLLの授業に当てた。LLの授業は、一昨年の場合と同様に、教科書とは独立して確保できたので自由な教材を利用して授業に取り組むことができた。ただし、教科書から独立してといっても、これから述べる教材の他に、教科書付属のレーザーディスク (*New Horizon* のもの) を利用したり、教科書の内容に関係したビデオを見せたりしたこともあった。

中学3年のLLの授業の目標は、「まとまった内容を聞いて大まかな内容をとらえること」と設定し、それに合うような教材を探した。一つは、*A Practical Course in Listening Drills* (大修館) である。この教材は、大修館から発行されている「エレメンタリーLL教本」、「フレッシュLL教本」、「ジュニアLL教本」、「スタンダードLL教本」、「カレッジLL教本」の中から、まとまった内容の文章とその内容に関する質問を抜粋してまとめたものである。A、B、Cの3つのレベルからなり、難しい語彙も含まれているが、この学年は中学1年のときからLLで鍛えられているので、大まかな内容をとらえるという点では最後のいくつかのテストを除けば、丁度良い内容ではなかったかと考えている。

もう一つは、*Listen For It* (Oxford University Press) である。この教材は、内容を大まかにとらえる、という点ではまさに最適の教材である。ただし、語彙・話される速さの点で、中学3年としては少し難かしかつたと思われる。そのため、1年間で半分程度しか終えることができなかった。次年度にこの学年を引き続き、LLで指導する機会を得たので、この教材の続きを現在指導している次第である。

次に、授業の進め方について述べてみたい。まず、*A Practical Course in Listening Drills* (以下PCLDと略す)の問題文を2度聞かせ、次にアナライザーを用いて、内容に関する正しい文の選択(タイプA)、内容に関する文の真偽(タイプB)を行った。内容が少し難しい場合は、テストのあとで、本文のスク립トを教材提示装置で提示して解説することもあった。1年でタイプBの途中まで終えることができた。生徒の解答結果は全てSP表にプリントアウトすると同時に、フロッピーディスクに記録されている。あるクラスの結果を示してみたいと思う。

タイプA	正答率
1~4	87.8
5~8	88.7
9~12	88.4
13~14	82.9
16~17	84.8
19~20	89.6
21~22	79.9
23~24	62.8
タイプB	
1~2	93.8
3~4	87.7
5~6	92.5
7~6	87.2

タイプAの23~24で正答率が低かったのは、未習の関係代名詞 *what, remind~of...* などが本文に出てきたためである。なおタイプAは短い英文を聞き、次に内容に関連する文を4つを聞いてその中から内容に一致する文を1つ選ぶもので、1課について2題ある。また、タイプBではまとまった英文を聞いたあとで、内容に関する英文を1課について8つ聞き、それぞれについて内容真偽を問う問題である。上記の正答率からみて、かなりの生徒が良く聞き取れていることが理解できるのではないと思われる。

20~40分でPCLDが終わると、残りの時間で*Listen For It*の聞き取り練習を行う。難しいので、練習をしたあとで、スク립トを提示して難しい表現や、語彙について解説する必要がある、と思うように先に進むことができなかった。しかし、大まかな内容を聞き取るという点ではかなり

の練習になったのではないかとと思われる。

以上が中学3年のLLの授業の普通の授業の進め方であるが、前述したように、必要に応じて教科書に関連したことをLLでも取り上げた。*New Horizon*にはレーザーディスクの教材も用意されているので、完成度の高い教材については、普通の授業で学習してから、LLの時間に、レーザーディスクを見せて復習したり、復習の課で内容真偽の問題がついているところでは、見せたあとで内容真偽の問題をアナライザーで解答させたりした。

あるクラスについての教科書のLet's Readの部分の内容真偽の正答率は次の通りである。

正答率

Let's Read	1 (6題)	84.1
Let's Read	2 (5題)	88.5
Let's Read	4 (24題)	85.6
Let's Try	2 (13題)	91.9

この正答率からもわかるように教科書の内容についても、生徒は聞き取って内容がよく理解できている。

3年間LLを含めて英語の授業を行って、本校の生徒は教科書程度の英文であれば、ほとんどの生徒がよどみ無く、よいアクセント・発音で読むことができるようになった。

最後に、筆者は現在の中学3年生が中学1年の時にLLの授業を担当し、発音を指導したことがあり、2年前の紀要で、この学年について継続して報告することを述べていたので、ここで発音を聞き分ける力が中学1年のときよりどの程度進歩したか、ここで報告したいと思う。

ここでは、日本人にとって特に難しいLとRの区別、また [◆], [], [a] の区別について再調査してみた。この学年が中学1年の時に使用した *Basic Course for English Pronunciation* 「LL教本 英語発音ベーシックコース」(大修館)の5課と14課のテストの部分だけをやはりアナライザーを用いて調査した。クラス編成が変わっているのも、比較しにくいのが、学年の正答率の平均で示すことにした。

1年次 3年次

1. [l] と [r] の区別 (30題)

① bell と bear	}	80.4 →	90.5
② lane と rain			
③ いろいろな語			

2. [◆][◆][a] の区別・[a:◆][◆:◆] の区別 (20題)

① [◆][◆][a] の区別	}	93.8 →	93.7
② [a:◆][◆:◆] の区別			

1の[l]と[r]の区別については、その後たくさん英語を聞いたばかりでなく、発声のし方を音声学的な立場から口蓋図を示して説明したり、NHKで放映された「トライ&トライ L

とRの区別」(30分)を見せたりしたし、また何と言っても3年間のキャリアが大きくものをいって正答率が10%上がったものと思われる。ただし、前後関係もなく、ただ単語が発音されるのを聞き分けるので集中力が欠けると間違えてしまうし、耳が良くても間違えることがある。

3年次の正答率と問題数を考えると30題で3題間違えたことになるので、これだけでできればほぼ十分と考えてもよいであろう。

2の[◆][◆][a]の区別・[a:◆][◆:◆]の区別では発音はするのは難しいとしても音をはっきり違うので1年のときにしっかり身につけたと考えてよいであろう。0.1点下がったのは誤差範囲といってもよいであろうが、中学1年のときは事前に発音練習して慣れてから、テストに臨んだのに対し、中学3年のときは、練習無しに、いきなりテストに臨んだので、このような結果になったのであろう。

発音についてはサンプルが少ないので大げさなことは言えないが、発音の点でも大まかな内容を聞き取るという点でもLLの授業を含めた3年間の英語お授業で聞く力は順調に育っていると行ってよいであろう。なお、前述したように、筆者はこの学年のLLの時間を引き続き担当している。高校1年では「細かいところも漏れなく聞き取る」ということを目標にして、リダクションフォームを聞き取る練習などをしながら、*Listen For It*の残りの部分の聞き取り練習などを行っている。

4. 4 高校2年生(41期生)

本校の場合、高校2年生がLL学習の最終年次となる。この学年は事状があり、高校に入学するまでほとんどLL教室での授業を受けたことがない。そのために、中学時代からLL授業に慣れてきた学年と比べて、学習に対して消極的な生徒も一部見受けられた。

4. 4. 1 授業の構成

4月初めから、第1時限目に遅刻者が目立った。そこで二宮(1991)をヒントに、遅刻者一掃作戦を開始した。理屈は簡単である。チャイムが鳴り終わるとすぐに、ある教材を流し始めるのである。遅れて来た者には必ず損をすることになる。(1)がそれにあたる。

授業は、次の3本の柱で構成した。

(1) Vocabulary Building (visual)

— 発音を間違えやすい語を中心にした、語彙を定着させる活動。

(2) Pronunciation Drills (audio)

— 英語らしい発音を身につけさせる活動

(3) Listening (audio)

— まとまった内容の英文を聞き、情報をつかみとる力を養成する活動。

4. 4. 2 授業の進め方

前述の(1)–(3)の柱に沿って授業は進められる。それぞれの柱の内容と、そこで用いられる教材を具体的に述べる。

(1) Vocabulary Building

『合格英単語・ビデオ速習コース——発音編』(45分) アルク(通信講座用)を教材とする。

次のような筆記テストにおける発音問題と、実際に正しく発音できるかどうか、の間には、ほとんど相関が見られないことは、よく知られている。

- 下線部の発音と同じものには○, 違うものには×をつけよ.
- 下線部の発音が他と異なるものを選び.
- 第1アクセントの位置を記号で答えよ.

このようなP-P test (paper-and-pencil test) のかわりに、発音に注意しなければならない語をまとめたビデオを用いて、実際に発音練習をさせることとした。

ビデオの構成を次に示す。画面は全てアニメーションで、英語に続いて日本語の字幕が出る。

- ① アクセントに注意すべき語
- ② 黙字を含んだ語
- ③ 発音は同じで綴りが異なる語: air—heir 等
- ④ まぎらわしい発音の語: clash—crush 等
- ⑤ 綴りが同じで発音異なる語: bow (弓)—bow (礼) 等
- ⑥ 国名と民族名
- ⑦ 不規則動詞のうち発音に注意すべきもの

毎時間、授業の冒頭に1セクション分のビデオを見せる。時間は6–8分程度である。7回目の授業で最後まで終わると、もう1度①から繰り返すことになる。1年間(約30時間)で約4回見ることができる計算になる。一巡目は見ただけだったが、二巡目からはビデオに続けて発音練習を行った。ビート音は入っているが、『くちぐせ発音特訓ビデオ』ほど、リピートしやすくはできていない。三巡目からは、意味の確認テストをビデオの翌週に行った。

(2) Pronunciation Drills

教材は『英語の発音——基礎編』(開沢社)を使用した。

この教材は、次の3つの部分から構成されている。

- I. Practice (1–49) : 個々の音素の発音練習 (資料8)
 - II. Pair Drills (1–18) : 似通った音素を区別して発音する練習
 - III. Tests (1–16) : 音素の聞き分けテスト
- (資料9)

授業での進行例を示す。

4月16日(水)	Practice 1	[i:]
4月23日(水)	Practice 2	[i]
4月30日(水)	Pair Drills 1	[i:] & [i], Tests 1 [i:] & [i]

2-3時間に一度、テストを実施する。解答にはアナライザーを使用する。

(3) Listening

島岡丘著『英語ヒヤリング・実力完成問題集』（開拓社）を部分的に使用。（資料10）

全4部構成のうち、最後の「Part IV 文章全体の聞き取り」だけにしぼり、ゆっくりと時間をかけて進めて行った。Part IVの内容は、1. 質問の聞き取り, 2. つづり字・数字の聞き取り, 3. 文意の把握, 4. 情報の聞き取り, 5. 主題の聞き取り, 6. 時事的内容の聞き取り, 7. ユーモアの聞き取り, 8. 物語の聞き取り, に分かれる。

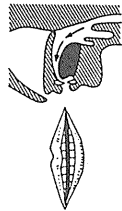
毎時間、1題ずつ取り組んだ。手順は次の通りである。

- ① テープを聞く。各自はブースのカセットに録音
- ② アナライザーで回答する。
- ③ 正答を示す。
- ④ 一人一人が自分のわからなかった箇所を聞きなおす。
- ⑤ テープのスク립トを示す。（実物提示装置を使用）再度テープを聞き、各自の弱点を確認する。

1. [i:]

日本語の「イー」よりも、舌に力を入れ、くちびるを横にひらいて緊張させ、強く「イー」と発音する。

Drill p. 62
Test p. 83



A. [i:] [i:] [i:] [i:]

- B. [i:-] [-i:]
1. eat
 2. each
 3. eagle
 4. need
 5. chief
 6. teacher
 7. me
 8. tea
 9. agree

- C.
1. three trees
 2. clean beach
 3. green leaves
 4. street scene
 5. feel free
 6. meet people
 7. dream dreams
 8. read magazines

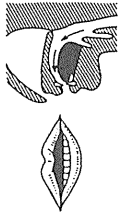
- D. 1. *J:* Can you speak Japanese?
A: About three words, that's all.
J: Have you seen much of the Far East?
A: No, I only came three weeks ago.
3. *A:* Please read these leaflets.
J: Thank you. They seem very useful.
4. *A:* What would you like to see today?
J: I'd like to go to the beach.

- E.
1. *Extremes meet.* (大勢は大愚に似たり)
 2. *Easier said than done.* (言うは易く行うは難し)
 3. *New brooms sweep clean.* (新任者は仕事に熱心だ)
 4. *Evil be to him who evil thinks.* (悪い邪(よ)いなる者に災いあれ)
 5. *A friend in need is a friend indeed.* (まさかの時の友こそ其の友)

2. [i]

日本語の「エ」の口のかまえて、「イ」と発音する。「イ」よりも「エ」に近い音になるよう、くちびるをひらいて、舌をさげて発音する。

Drill p. 62
Test p. 83



A. [i] [i] [i] [i]

- B. [i:-] [-i]
1. if
 2. inside
 3. interesting
 4. win
 5. finish
 6. tricks
 7. taxi
 8. early
 9. Italy

- C.
1. big city
 2. thin women
 3. Indian curry
 4. pretty things
 5. bring money
 6. become rich
 7. sing quietly
 8. fix the engine

- D. 1. *J:* What do you think about raw fish?
A: I like it more than I expected.
2. *J:* Will you give this present to your sister?
A: Yes, it will make her very happy.
3. *A:* Which American cities have you visited?
J: San Francisco and Chicago.
4. *A:* Did you enjoy Thanksgiving?
J: Yes, but I didn't like roast turkey very much.

- E.
1. *Live and let live.* (世の中は持ちつ持たれつ)
 2. *If the cap fits, wear it.* (その思ふなら思つて結構)
 3. *Charity begins at home.* (博愛は我が家から)
 4. *It is no use crying over spilt milk.* (覆水(ひ)盆(び)返らず)
 5. *Necessity is the mother of invention.* (必要は発明の母)

1. [i:] & [i]

テストの解答の仕方について
(金テスト共通)

- A. 1. eat (i:) 2. beat (i:) 3. seat (i:) 4. sheep (i:) 5. reach (i:) 6. sleep (i:) 7. feel (i:) 8. wheel (i:)
- it (i) sit (i) fill (i)
- rich (i) will (i)
- ship (i)
5. reach—reach—rich (i:) (i:) (i:)
6. slip—sleep—slip (i:) (i:) (i:)
7. feel—fill—feel (i:) (i:) (i:)
8. will—wheel—wheel (i:) (i:) (i:)
- B. 1. eat—eat—it (i:) (i:) (i:)
2. beat—bit—bit (i:) (i:) (i:)
3. sit—seat—sit (i:) (i:) (i:)
4. ship—ship—sheep (i:) (i:) (i:)
- C. 1. evil (i:) (i) 2. sleepy (i:) (i) 3. repeat (i:) (i:)
4. believe (i) (i:) 5. feeling (i:) (i) 6. sixteen (i) (i:)
7. eat a biscuit (i:) (i) (i) 8. need a minute (i:) (i) (i) 9. reach the city (i:) (i) (i) 10. swim in the sea (i) (i) (i:)
- D. 1. steep hill (i:) (i) 2. steam engine (i:) (i) 3. cheap things (i:) (i) 4. three children (i:) (i)

テスト (A, B, C) は、それぞれ下記の要領で解答しなさい。

A. テープを聴いて、各組の3つの語句 (a, b, c) がすべて同じなら S, a と b が同じなら a-b, a と c が同じなら a-c, b と c が同じなら b-c, すべて異なる場合は D の符号を、それぞれ○で囲みなさい。

例 a. reach b. rich c. reach
(a-c を ○で囲む)

B. テープを聴いて、各組の3つの文 (a, b, c) がすべて同じなら S, a と b が同じなら a-b, a と c が同じなら a-c, b と c が同じなら b-c, すべて異なる場合は D の符号を、それぞれ○で囲みなさい。

例 a. I've just seen a sheep.
b. I've just seen a sheep.
c. I've just seen a sheep.
(S を ○で囲む)

C. テープを聴いて、() の中に適当な語を書き入れなさい。

例 Don't () in the street.
(sleep を書き入れる)

Year	Class	No.	Name	Score

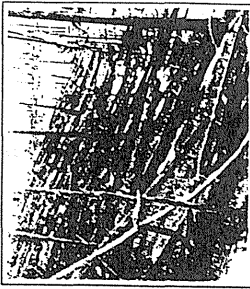
I. [i:] & [i]

- A. 1. S a-b a-c D
 2. S a-b a-c D
 3. S a-b a-c D
 4. S a-b a-c D
 5. S a-b a-c D
 6. S a-b a-c D
 7. S a-b a-c D
 8. S a-b a-c D
 9. S a-b a-c D
 10. S a-b a-c D

- B. 1. S a-b b-c D
 2. S a-b b-c D
 3. S a-b b-c D
 4. S a-b b-c D
 5. S a-b b-c D
 6. S a-b b-c D
 7. S a-b b-c D
 8. S a-b b-c D
 9. S a-b b-c D
 10. S a-b b-c D

- C. 1. This was very ()
 2. Please don't () it.
 3. The bank is at the top of the ()
 4. Who () here?
 5. I'd like a () more.
 6. This is my ()
 7. She doesn't want to () here.
 8. That's a very big ()
 9. I need a new ()
 10. You have big ()

5 次の写真を見て、テープを聞きながら、次の問いの答えとして最も適当なものを a.~d. の中から選びなさい。(2回読みます。質問も2回ずつ読みます。)



Felled trees at blast site in Siberia

- How high did the fireball rise?
 - A few miles.
 - 30 miles.
 - Twelve miles.
 - 40 miles.
- How far was the blast heard?
 - 40 miles away.
 - A few miles away.
 - 30 miles away.
 - Hundreds of miles away.
- When did the event take place?
 - In 1904.
 - In 1930.
 - In 1905.
 - In 1908.
- Where were the people closest to the explosion then?
 - 45 miles away.
 - 40 miles away.
 - 20 miles away.
 - 30 miles away.
- What happened to a man sitting on his porch?
 - He was knocked unconscious.
 - He was injured.
 - He was killed.
 - He was sent to hospital.

6 テープを聞き、正しい内容を述べているものを選びなさい。(2回読みます。1.~8.の文も2回ずつ読みます。)

- The Japanese prime minister has often made an appeal to the Japanese public through television.
- The appeal made by the Japanese prime minister was the first time in history.
- The prime minister wanted the Japanese people to buy more foreign goods.
- The prime minister encouraged the Japanese people to deposit

more money in the banks.

- One hundred dollars' spending by each Japanese means almost nothing.
- 12 billion dollars spending on imported goods can be achieved by spending of 100 dollars by each Japanese.
- The Japanese market still seems impenetrable to many overseas companies.
- No steps can be taken to simplify regulations standards and other restriction's on imported goods.

7 テープを聞き、その内容に合っているものを次の1.~10.の中から5つ選びなさい。(2回読みます。1.~10.の文も2回ずつ読みます。)

- There is no open university program on Saturday.
- Open university students have to go to school for a short period of time.
- Open university students can also study by radio.
- BBC 1 has a special program for open university students.
- The TV program for open university students lasts more than one hour.
- The TV sets are rented to open university students by the school authorities.
- Commercial programs are seen during the open university programs.
- The enrollment of the open university is not limited to young people.
- The reason for their enrollment is to update their knowledge and obtain a degree.
- The BBC morning programs are entirely devoted to the education of the open university students.

8 テープで短文を聞き、次に1.~8.の質問が読まれます。その答えとして最も適当なものをそれぞれ a.~c. の中から選びなさい。(2回読みます。1.~8.の質問も2回ずつ読みます。)

- a. 43 years old. b. 49 years old. c. 42 years old.

中学1～3学年 英語科年間計画表		週1	年2	年3	年
学	期	4	4	4	3
月	日	1	1	1	2
週	日	1	1	1	2

学	期	1年	2年	3年	年
I	1	教科書 New Horizon English Course 1 (東書)	教科書 New Horizon English Course 2 (東書)	教科書 New Horizon English Course 3 (東書)	3年
	2	Welcome to English 英語でのあいさつ	中1の復習	中2の復習	<L L L>
	3	日常生活で出会う基本単語の紹介	教科書 Les. 1 自己紹介	教科書 Les. 1 that節	American Streamline Connection (OUP) 他
	4	教科書 Les. 1 英語の文字の練習	Les. 2 be動詞の過去	Les. 2 現在完了	
	5	Les. 2 This is ~ / Is this ~?	Les. 3 一般動詞の過去	Les. 3 副詞節	
	6	Les. 3 What's this? Who's this?	Les. 4 On the phone	Les. 4 分詞の形容詞的用法	
	7	Les. 4 人を紹介する. This is ~.	Les. 5 比較級・最上級	Les. 5 Let's Read 1	
	8	Les. 5 自己紹介	Les. 6 不定詞・be going to	Les. 6 関係代名詞 (主格)	
	9	Les. 6 買い物	Les. 7 Let's Read 1	Les. 7 Let's Read 2	
	10	Les. 7 数をたずねる	Les. 8 When節・have to	Les. 8 ask ~ to do	
	11	Les. 8 一般動詞の肯定文・否定文・疑問文	Les. 9 比較級・最上級	Les. 8 SVOC	
	12	Les. 9 時間をたずねる	Les. 10 発音	Les. 9 関係代名詞 (目的格)	
	13	Les. 10 代名詞の目的格と所有格	Les. 11 英語	Les. 10 関係代名詞 (主格)	
	14	Les. 11 現在進行形	Les. 12 発音	Les. 11 関係代名詞 (主格)	
II	15	Les. 12 Canを使ったイタダキとドレ	Les. 12 不定詞・be going to	Les. 12 関係代名詞 (主格)	
	16	Les. 13 There is ~ / Is there ~?	Les. 13 Let's Read 1	Les. 13 Let's Read 2	
	17	選読の練習 (アウトラインのとらえ方)	Les. 14 When節・have to	Les. 14 ask ~ to do	
	18	精選の練習	Les. 15 比較級・最上級	Les. 15 関係代名詞 (主格)	
	19	精選の練習	Les. 16 不定詞・be going to	Les. 16 関係代名詞 (主格)	
	20	精選の練習	Les. 17 Let's Read 1	Les. 17 関係代名詞 (主格)	
III	21	精選の練習	Les. 18 When節・have to	Les. 18 ask ~ to do	
	22	精選の練習	Les. 19 比較級・最上級	Les. 19 関係代名詞 (主格)	
	23	精選の練習	Les. 20 不定詞・be going to	Les. 20 関係代名詞 (主格)	
	24	精選の練習	Les. 21 Let's Read 1	Les. 21 関係代名詞 (主格)	
	25	精選の練習	Les. 22 When節・have to	Les. 22 ask ~ to do	
	26	精選の練習	Les. 23 比較級・最上級	Les. 23 関係代名詞 (主格)	
	27	精選の練習	Les. 24 不定詞・be going to	Les. 24 関係代名詞 (主格)	
	28	精選の練習	Les. 25 Let's Read 1	Les. 25 関係代名詞 (主格)	
	29	精選の練習	Les. 26 When節・have to	Les. 26 ask ~ to do	
	30	精選の練習	Les. 27 比較級・最上級	Les. 27 関係代名詞 (主格)	
31	精選の練習	Les. 28 不定詞・be going to	Les. 28 関係代名詞 (主格)		
32	精選の練習	Les. 29 Let's Read 1	Les. 29 関係代名詞 (主格)		
33	精選の練習	Les. 30 When節・have to	Les. 30 ask ~ to do		
34	精選の練習	Les. 31 比較級・最上級	Les. 31 関係代名詞 (主格)		
35	精選の練習	Les. 32 不定詞・be going to	Les. 32 関係代名詞 (主格)		
36	精選の練習	Les. 33 Let's Read 1	Les. 33 関係代名詞 (主格)		
中学英語のまとめ					

英語 I		1 年	2 年	3 年
英語 II		4	5	3+3
英語 II B・II C				

学 期	月 週	高 1 (英語 I)	高 2 (英語 II)	高 3 (英語 II C)
I	1	教科書 The CROWN ENGLISH I (三省堂) 1 Introductory Lesson	教科書 What's New? II (東京書籍) 1 年次の復習	教科書 Unicorn English Composition アルク「ビデオ合 格英単語」
	2	2 中学校既習事項の復習	Les. 1 English For Com- munication	教科書を1週間に1 課こと進める。
	3	3 ・エッセイ形式の文 ・英語諸國の年中行事	Les. 2 How Does A Boy Meet A Girl In Your Country	各課につき2人のレ ポーターを決めて授 業の1週間前に教官 に提出する。授業は そのレポートをベー スとして進める。ト ピック別の單元にな っているので、各単 元に関連した例文を コピーして配る。ト ピックに関係のある 入試問題も適宜取り 組ませる。
	4	4 教科書 Les. 1 過去完了	Les. 3 A Cure For A Cold Further Reading	Oral Communication Invitation 招待の仕方について 様々な英語を教える On the Street 道のたずね方、答え 方 他
	5	5 関係代名詞	Les. 6 Are Headsets A Hearing Hazard? Les. 7 What Do You Want To Be	
	6	6 SVO (形容詞)	Les. 8 Stand By Me Les. 10 What's Your Problem	
	7	7 7A・4A・1A問題 環境問題	Les. 12 Learning By Video Les. 13 Sharing A Laugh Les. 14 Peace Is All We Need	
	8	8 ジーンズの歴史	Les. 15 The Younger Knows Best	
	9	9 Over the 詩の韻律	サブ教科書として MAINSTREAM II B (増進堂) を併用。	
	10	10 The Swing 部分否定	「英語を歌おう」(N・J・I) や映画 Stand By Me 等を 適活用する。	
	11	11 Meet Tom SVC (現在分詞)	Unit 1-2 時制	
	12	12 Edison SVC (現在分詞)	Unit 3-5 助動詞 他	
	13	13 Les. 8 関係代名詞 (when 小説	Unit 6-8 受動態 他	
	14	14 Les. 9 強調構文	Unit 9-11 関係詞 他	
II	1	1 SVO (疑問詞) 他	Unit 12-14 語法 他	
	2	2 Stopping by Woods 科学 on a Snowing Evening 詩 (フロスト)	Unit 15 分詞 他	
III	3	3 Stopping by Woods 科学 on a Snowing Evening 詩 (フロスト)	Unit 15 分詞 他	
	4	4 Stopping by Woods 科学 on a Snowing Evening 詩 (フロスト)	Unit 15 分詞 他	

特別授業 (重要事項総復習)

高校2年のまとめ

1992年度 筑駒版 AV教材配当(案)

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

	ＬＬ用メイン教材	サブ教材	主要教科書対応
中学 1 年	LL教本英語発音バージョンコース(大修館) First Steps in Listening (Lingual House)	NHKラジオ基礎英語(NHK) F.I.A. Rhythm Training (地球人村) 英語を歌おう(バイオニア)	<Horizon(東京書籍)> 律風版 レーザーディスク(東京書籍・バイオニア) 律風版 Repeat Learning System パーコードCD(ソニー)
中学 2 年	LL教本英語発音バージョンコース(大修館) First Steps in Listening (Lingual House) Progress in Listening (Lingual House)	NHKラジオ基礎英語(NHK) F.I.A. Rhythm Training (地球人村) 英語を歌おう(バイオニア)	<Horizon(東京書籍)> 律風版 Repeat Learning System パーコードCD(ソニー)
中学 3 年	American Streamline Connection (OUP) Progress in Listening (Lingual House) Communication L.L. English Course (大修館) Basics in Listening (Lingual House)	英語を歌おう(バイオニア) Whaddaya Say (ワケイ・サ・ヒス)	<Horizon(東京書籍)> 律風版 Repeat Learning System パーコードCD(ソニー) Raise the Titanic [Let's Read I]
高校 1 年	Listening in the Real World (Lingual House) Communication L.L. English Course (大修館) Listen for it (OUP)	英語を歌おう(バイオニア)	<Crown(三省堂)> The Wizard of Oz [Lesson 4]
高校 2 年	Coast to Coast (Longman) Pronunciation Practice in English (開拓社) 英語ヒアリング(開拓社)	英語を歌おう(バイオニア) Small Talk (OUP) 合格英語ビデオ速習コース(全5巻:アルク)	<What's New? II(東京書籍)> Stand By Me (Lesson 8) Jane Fonda's Workout. (Lesson 12)

7. AV 教材のデータベース化の試み

7. 1 現在の進行状況

まだ、データを収集している段階で、コンピュータ入力までには至っていない。ある程度以上データ量が増えないと、データカードの枠組の再検討が難しいからである。一端入力してしまったから枠組を修正することは、ほぼ不可能である。枠組の決定には慎重でなければならない。

なぜ、データの量が思うように増えないのか。理由は簡単である。授業実践に裏付けられた教材を提供してくれる新たな仲間がほとんど現れなかったからである。教材カタログを引き移して、カードの枚数を増やすことは簡単である。しかし、それでは我々の目指している「授業名人のアイデア集大成」のデータベースにはならない。

7. 2 LL 授業のための教材——(A)は audio. (V)は video を表わす。

(1) ウォーム・アップ用

- *F.I.A. Rhythm Training* 1-6 (V)

(2) メイン教材用

- *Listen First* / OUP (A)
- *Fresh LL* / 大修館 (A/V)
- *Elementary LL* / 大修館 (A)
- *New Junior LL* / 大修館 (A)
- *Basics in Listening* / Lingual House (A)
- *Strategies in Listening* / Lingual House (A)
- *First Steps in Listening* / Lingual House (A)
- *Progress in Listening* / Lingual House (A)
- *Listen for It* / OUD (A)
- *Listening in the Real World* (A)
- 「英語版連想クイズ」 / マグロウヒル (A)

(3) 発音練習用

- 『LL 教本・英語発音ベーシックコース』 / 大修館 (A)
- 『はじめての英語発音』 / セイドー (A)
- 『英語の発音——基礎編』 / 開拓社 (A)
- 『米会話リダクションの演習』 / 語研 (A)
- *Whaddaya Say?* / ランゲージ・サービス (A)

(4) 文法事項等の導入に役立つ歌

- *All My Loving* / The Beatles (命令文+and~)

- *Norwegian Wood* / The Beatles (SVOO, tell~to...)
- *Scarborough Fair* / Simon & Garfunkel (be going to~)
- *Blowin' in the Wind* / Peter, Paul & Mary (接続詞, 助動詞)
- *Top of the World* / Carpenters (関係代名詞)
- *Longer* / ダン・フォーゲルバーグ (比較級)

7. 3 データ収集のために

不特定多数にデータ提供を呼びかけるだけでは不十分であることはわかった。これからは、親しい仲間の持っている宝物を重点的に引き出す作戦に転換する。そうして、データベース化が動き出して、情報のフィードバックが行える段階になり、自然と新しいデータが集まってくるようになることを期待している。

色々な方からデータを提供していただいた。特に、奈良女子大学附属高校の荒木孝子先生のデータは大変参考になった。紙面を借りて御礼を申し上げたい。

8. 今後の課題

3年間のLL実践研究を振り返って、残された問題点を整理してみる。

- ① 研究計画が総花的で焦点がぼれていなかった。
- ② LL担当者が毎年変わってしまい、ノウハウが蓄積しにくかった。
- ③ LLについて教科として継続して取り組んでいく姿勢が足りなかった。
- ④ LLを通年で実施することが困難な場合が出て来た。

それぞれについて、解決に向けて何らかの方向性を出さなければならない。

- ① テーマを限定して、授業実践を続けていく。
- ②, ③について。定期的にLL担当者の打ち合わせを行う。学年末には次年度の担当者に授業内容・反省点等の引きつぎを行う。この2点は最低限実行しなければ進歩は望めない。

④については、教科のカリキュラム全体や、学校予算の配分にもにかかわる問題であり、慎重な対応が必要である。

参考文献

久保野雅史 (1991) 「オーラル・コミュニケーションに備えて——これからの中学校で何ができるか」『現代英語教育』1991年5月号, 研究社.

小泉仁 (1992) 「LLとオーラル・コミュニケーションB」『現代英語教育』1992年10月号, 研究社.

根岸雅史 (1992) 「リスニングのつまずき——診断とその治療」『現代英語教育』1992年9月号, 研究社.

二宮正男 (1991) 「英語授業の雰囲気」『英語の窓』No.286, 中教出版.